むさし同窓会

編集発所
武蔵野市境４－13－28
都立武蔵高校
同窓会編集委員会
電話 武蔵野(51)4554
印刷所 (有)柾木印刷
武蔵野市境３－17－１

同窓会 総会は５月11日（第２日曜日）

会場：母校１階会議室
時間：午後12時半～４時
催物：総会（セレモニー議事等）
　　特別企画／柳　貞子ミニリサイタル（音楽室）
　　スライド「武蔵の25年」（被服室）
会食：午後２時半～　（会議室）
会費：500円（今年卒業の新会員は無料）

特別企画 『なつかしい先生の室』

談笑できるお部屋を用意します

現職の先生方も多数ご出席の予定

当日ご出席予定の先生方（アイウエオ順）

有馬敏行　飯田敏江　石沢慶子　大国五郎　久保田省吾　小松次平　近藤正生　斉藤茂夫　志水富雄　上島光安　高橋操子　多賀文雄　鳩田正雄　中原千代子　中村礼作　成田武雄　広瀬和彦　兵頭信清　増田恵美子　松永貞雄　水野高夫　森山淳　横山千代子

着任のご挨拶

学校長　青柳甲子男



校庭を飾っていた満開の桜が、風に舞いながら路上を彩る頃となりましたが、会員の皆様には、益々ご健勝のことと存じます。

私、前任校の都立城南高校から吉る四月一日付で、前校長大国五郎先生のご勇退の後をうけて着任いたしました。前任校は都心の六本木にありましたので、常に頭を押えつけられているような環境でしたが、武蔵野の自然を残す本校に着任して、空の広さ青さをしみじみと感じ、城南の前の日野高校の頃を思いおこして居ります。

本校は今年が創立四十周年になります。この間に同窓生の皆様や教職員の方々は更には生徒諸君の一体となった努力が、今日の輝かしい伝統を築き上げて来たものと思って居ります。私にとりましても、このような名門校に着任できましたことは、この上ない喜びであると同時に、責任の重さをひしひしと感じて居ります。

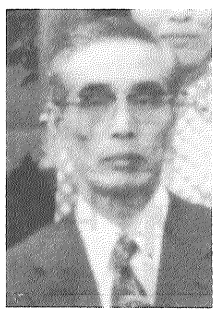
着任後まだ日が浅く、学校や生徒の実態が十分に把握できてはいませんが、ただ一つ言えることは、本校に学ぶ生徒諸君が、すぐれた資質を持っていることは、周知のことであります。このすぐれた資質を、どう刺戟して伸ばすかが、私共に課せられた大きな課題であると同時に、学校に寄せる期待でもあると言えると思います。この課題や期待を肝に銘じて、先生方と共に一層の努力をいたしたいと考えて居ります。

同窓会の皆様には、母校における私共の実践に対しまして、一層のご支援とご激励とをいただけますようお願いいたしまして、着任の挨拶といたします。



退任のご挨拶

前校長　大国五郎



私が武蔵に着任したとき、校庭に満開の桜が、ひときは青く澄んだ四月の空に咲きほこっていました。三年たったいま、それがまた大きく蕾をふくらませ、咲き始めています。

それは私が去っても、豊かな自然に育くまれた美しい武蔵の伝統は、いつまでも続いていきますよと励ましてくれているようで、大変心強く感じます。

私はこの三年間、生徒たちにプライドの持てる生活を送れと言ってきました。父母の方がたには身をもって人生の手本を示して頂きたい、先生方には生徒一人ひとりの心の内奥にあるものに触れ励ましてもらいたいと願ってきました。

同窓の皆さんには、あまりものを言った覚えはありませんが、若井会長さんに象徴されるように、武蔵の同窓会には美しく、若々しい感じを受けてきました。ことし創立四十周年になりますから、一期生で五十二、三才。この人たちを先頭に、これからがいよいよ社会の指導層として活躍される時期、大きな期待をもって見守っていきたいと思います。

後任には、これまで日野高、城南高の二校の校長を経験された、立派な青柳甲子男先生をお迎えし、武蔵の一層の発展が期待されます。昔から還暦という言葉がありました。いまもあるのでしょうが私自身はさいわい、まだ健康に恵まれ、とてもそういう年になった感じがしないのです。

今後いつまで生き、どれだけ仕事ができるかわかりませんが、気持だけはまだ皆さんに負けないつもりで勉強もし、私なりの仕事を続けていきたいと考えています。

簡単ですが一言現在の心境を申し述べ、同窓会並びに会員の皆さんのご発展を祈念して退任のご挨拶といたします。

同窓生だより

武蔵高校一回卒業の星野香栄でございます。

このたび、中央公論社より『京都竹之御所風　おそうざい精進料理』をオールカラーで一冊の本にしていただきました。高女三回生の小沢万里子さん（旧川合さん）も執筆して下さるなど〝なつかしいむさし〟の香が一杯の本でございます。

これから成人におなりの方、いつのまにか初霜の様な髪の御自分におきづきの方、又、お幸せにお孫さんにかこまれていらっしゃる方、皆様方に是非〳〵おすゝめ申し上げます。

中央公論社　暮しの設計 131

第５代校長 荒井弘蔵先生 ご逝去さる

昭和54年８月26日

〈追悼記事２面〉

転退職の先生方

※転退された方

大国五郎校長　御退職
石沢慶子先生（国語）　御退職
田中哲男主事　転職　小金井北高（一般用務）

※転入された方

青木甲子男校長→城南高校より
村山幸江先生（国語）→東村山高校より

54年度途中転任された方

徳永　宏主査　大泉養護学校事務長
酒井正弘主事　南多摩高等学校
松本久美子主事　武蔵野北高等学校司書

54年度途中転入された方

山市豊子主査　中野工業高等学校から
竹内幸男主事　牛込商業高等学校から

ミニリサイタルプログラム

なつかしの映画音楽から
1. オルフェの歌(「黒いオルフェ」より)
2. マルセリーノの歌(「汚れなきいたづら」より)
3. ラ・ビオレテラ
　すみれの花売娘(「街の灯」より)

歌曲から
1. のばら
2. セレナーデ　……シューベルト
3. スペイン舞曲第5番アンダルーサ……グラナードス

スペイン民謡より
1. ソロンゴ
2. チニータス酒場にて　……ガルシア・ロルカの民謡より
3. エル・ビート……アンダルシア民謡
4. 鳥の歌……カタルーニャ民謡
5. 私が歌うハエンの歌……アンダルシア民謡



柳 貞子（高校２回Ａ組）ミニ・リサイタル

- 母校音楽室
- １時30分～２時30分

音楽室をサロンムードに作り変えます。
ギターの調べに乗ったすばらしい歌声
ぜひこの機会に柳さんの作るスペインの世界をご堪能下さい。

ギター／小川一彦　照明／ユープロジェクト

（紹介記事２面にあります）

〈ご退職〉三十五年間ありがとう

ごあいさつ

石沢慶子



三月三十一日付けで武蔵高校を卒業いたし、同窓会に入会させていただきました。本当に長い間お世話になりました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

過去とは、なんとはかないものなのでしょう。夢・幻の如しというのが実感です。しかしまた、本校での三十五年という、私の人生の三分の二を占める戦後の歳月には、さまざまの出来事があったことも真実です。思い出せば楽しくなつかしいことばかりで、恵まれた環境に過させていただいたことを、ただただ感謝するばかりでございます。同時に、浅学非才でなんのお役にも立ちえなかったことを申しわけなく存じております。昨日、偶然大村はま先生の自叙伝を聴き、穴にも入りたい恥かしさを覚えました。

早いもので四月ももう半ば。今年の花は特別美しい気がします。庭石の間に飛び散って咲いているすみれの紫が目にしみるのも、ゆとりの出来たせいでしょうか。ともあれ、しばらく心身の充電をしてから、再出発したいと思っております。

訃報

荒井弘蔵先生を悼む



昨年八月二六日、第五代校長荒井先生が逝去されました。享年七十七才でいらっしゃいました。つつしんで哀悼の意を表します。

お通夜・ご葬儀ともに三鷹の法専寺で行われましたが、弔問の方々は非常に多く、教育界での先生の長くご立派なお働きがしのばれました。

先生は、昭和三四年四月、本校に着任され以後四年間誠心誠意教育に当られました。あの堂々としたお身体から、やわらかい、大きなお声で具体的な教訓を話されていたこと、第一学年生徒全体の夏季施設、入笠山の生活を創始されたことなど、高校生の心身の鍛練に努力されたことなどが今も思い出されます。着任中に校舎の一部火災など不慮の災難も起りましたが、常に毅然として処理にあたられ、それを発展に代えられたご功績は忘れてならないと存じます。

晩年は、健康に恵まれず、ご療養に専心されていましたが、やさしくしっかりした奥様の介抱を受け、学界に経済界にご活躍の秀れた多くのお子様方に見守られたのですから幸福な方でした。心からご冥福をお祈り申し上げます。

石沢記

―告知板―

●同窓会当日クラス会を母校で開く方は、受付までお知らせ下さい。

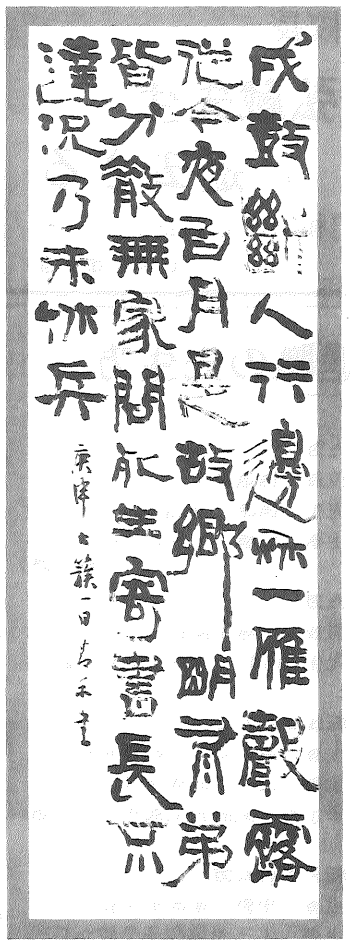
●どんな記事でも（PRでも可）結構です。

横山千代子先生 日本書道美術院大賞受賞

本年一月四日から都美術館で開催された第三十四回日書展で、横山先生には、日本書道美術院大賞という、まことに栄誉ある賞をお受けになりました。心からお喜び申し上げたいと存じます。

先生には、喜寿というご高齢にもめげず、ひたすらご精進なさって、この名誉をになわれました。お話しによりますと、師事されていた玉淵先生急逝の後は、殆ど独力で練磨なさっておられた由、その激しくみずみずしい気力にただただ感服するばかりでございます。

先生は今なお本校の講師としてご後輩の指導にあたっておられます。にこやかなお顔、若々しいお声、そして厳しい書道のお教えも、すこしも変っておられません。毎年の卒業証書も、あの大家の先生が、心こめてお書き下さっているのです。これからも、お元気で、ますますご活躍下さいます様、念じてやみません。



第34回日書展　日本書道美術院大賞　教育部審査員　横山青禾

〈54・12・22付 PTA会報より〉

家庭教育と経済
充実した人生のために

経済評論家 高原須美子さん
（高校4回D組）

母校で講演

「主婦と経済」
＝女性の立場で家庭・社会の経済を考える＝



高原須美子氏

一、経済における女性の力

家庭の主婦は経済にうとく、又経済の中で占める力が弱いと思われているが、決してそうではなく、主婦の立場は経済の中で大変な力を持っているということは数字にも現われている。

今、話題になっているGNP昭和40年代の後半には世界第2位の経済の力を持つようになった。そして、このGNPとして生産されたものの過半数（50数%）は家庭で消費される。この家庭で消費される内の80%は実質的に財布のひもを握っている主婦が買い手である。つまり主婦がGNP消費を左右する大きな力を持っている一方、GNPには入らないが各主婦の日常家事の面で大きな生産する力を持っている事を自覚すべきである。一人一人の力は小さく、即刻、世の中を変えるという力ではないが、それがまとまった時に大きな力となり、一人一人が賢さを発揮していくと経済を、動かしていく地道な力となりうる。このように主婦の力は大きく経済に影響を与えているので

二、経済の成長と暮らしの中身

「良い暮らし」という言葉の意味も経済の成長と共に変ってきた。戦後の生活の苦しい時代は充分に食べることが出来、寒さをしのぐことが出来ればそれが良い暮らし」とされた。

昭和30年代では高度成長時代があって、決して被害者ではない。

がやってきて、物質的な豊かさを求める時代に入り、食生活も贅沢になり、主婦は家事労働を機械におきかえるようになった。そして、物質的には欧米の暮らしに追いつき、追いこし、物質のあふれる暮らしとなった。

（以下省略）



柳　貞子　略歴

東京芸術大学声学科卒
1961～67年、スペイン、ポルトガル、アメリカで演奏活動、その間、グラナードスの高第、コンチータ、バディア女史に師事、スペイン歌曲を学ぶ。
1974年カムバック以来、スペイン歌曲のスペシャリストとして、日本でスペインの歌の紹介につとめている。
1978年に発売された初のLPレコード「柳貞子スペインの歌」は朝日新聞（試聴室）、レコード芸術、週刊朝日、毎日新聞等で推薦をうけ、現在再盤発売中。
同年12月「クリスマスの歌と民謡」のリサイタルで朝日新聞その他で好評を得る。
1979年、第二集LP「グラナードス歌曲集」は朝日新聞（音学展望）で推薦をうける。
同時に音学の友社より学譜「グラナードス歌曲集」出版（訳詞・編）

コンサート多数　NHKTV　〃　FM

1980年
- 1月　沖縄　ルーテル市ケ谷センターでコンサート
- 3月「オーケストラがやって来た」に出演
- 4月　武蔵野公会堂
- 5月　ABC会館ホールでそれぞれリサイタル
  シングル盤「柳貞子スペインを歌う」
- 10月　文化会館小ホール　〉リサイタル予定
- 12月　ルーテル市ケ谷センター　〉リサイタル予定
  レコーディング予定

レコード
シングル盤　5月発売「柳貞子スペインを歌う」
1. 私が歌うハエンの歌……アングルシア民謡
2. さようなら・私の愛しいひと……ガリシア民謡
3. ラ・ビオレテラ（すみれの花売娘）……ポピュラーソング